

決算説明会資料

2018年度（2019年3月期） 第2四半期

DOWAホールディングス株式会社

2018年11月13日

2018年度（2019年3月期）上期の連結決算概要

単位：億円

	2017年度 上期実績 ①	2018年度		比較増減			
		5/11公表値 ②	上期実績 ③	前年比 (③ - ①)		5/11公表値比 (③ - ②)	
売上高	2,193	2,290	2,218	25	1%	△ 71	△3%
営業利益	146	145	93	△ 53	△36%	△ 51	△35%
経常利益	172	175	128	△ 44	△26%	△ 46	△27%
親会社株主に帰属する 当期純利益	117	125	88	△ 28	△24%	△ 36	△29%

- ✓ 2018年度上期は、原料鉱石の購入条件悪化などにより、製錬部門を中心に前年比で利益が減少し、営業利益93億円、経常利益128億円の決算となった。

為替、金属価格

	2017年度			2018年度			
	上期平均	下期平均	年度平均	上期前提	上期平均	下期前提	年度平均
為替：(円/\$)	111.1	110.6	110.9	110.0	110.3	110.0	110.1
銅：(\$/t)	6,005	6,884	6,444	7,000	6,487	6,200	6,344
亜鉛：(\$/t)	2,780	3,328	3,054	3,200	2,824	2,600	2,712
インジウム：(\$/kg)	184	269	226	350	286	250	268

2018年度（2019年3月期）通期の連結業績予想

単位：億円

	2017年度 実績 ①	2018年度		比較増減			
		5/11公表値 ②	最新見通し ③	前年比 (③ - ①)		5/11公表値比 (③ - ②)	
売上高	4,547	4,750	4,550	2	0%	△ 200	△4%
営業利益	309	320	245	△ 64	△21%	△ 75	△23%
経常利益	363	380	300	△ 63	△17%	△ 80	△21%
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	265	210	△ 36	△15%	△ 55	△21%

- ✓ 下期の為替・金属価格は、上期末並みの水準で推移すると想定
- ✓ 自動車関連をはじめとして主要製品の需要は、概ね期初の想定通りに推移
銀粉については、2019年度以降に市場再拡大の見通し

事業環境の変化を見極めながら、**顕在化した課題への対処**と**成長施策の
着実な具体化**により、中期計画2020の目標達成に向けた歩みを進めていく

足元の課題・機会と中期計画2020達成に向けた取り組み

	足元の課題・機会	今後の取り組み
環境・リサイクル	・低濃度PCBの処理単価下落	・PCB:許認可量の拡大 / 既存:高単価物の増処理
	・東南アジアにおける事業拡大	・拠点展開や処理メニューの充実による廃棄物処理の拡大
	・国際的な廃棄物処理の潮流変化	・廃棄物処理とリサイクルをコアとした事業展開
製錬	・原料の安定調達	・ロス・ガトスの操業開始 / リサイクル原料の増集荷
	・原料中の不純物の増加	・秋田製錬での不純物分離プロセスの増強
電子材料	・収益力の向上	・コア技術を活かした新規製品の開発・拡販
	・新規製品の早期事業化	・事業化時期の近い製品への経営資源の集中
金属加工 熱処理	・増加する需要の確実な取り込み	・国内外を問わず、需要地での拠点展開
	・需要に対応した生産能力の確保	・主要拠点におけるタイムリーな設備投資の実施
共通	・コスト削減	・原価低減策の推進

中期計画2020に織り込んだ施策をベースに、様々な環境変化へ柔軟に対応する

各セグメントにおける 主要施策の進捗状況

環境・リサイクル① 2018年度の概況

事業環境

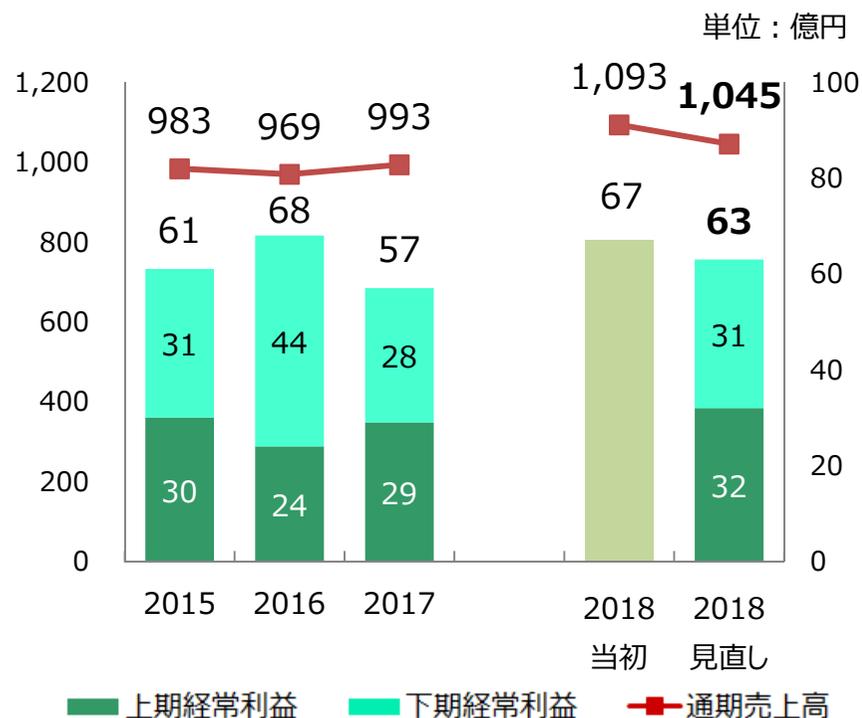
- ・廃棄物：国内は発生量堅調、東南アジアは大型案件一巡、製造業中心に発生量堅調
- ・リサイクル原料：集荷環境が好転

《主要製品の数量動向》

(2017年度上期 = 100)

	2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期
国内廃棄物中間処理量	100	95	99	100
東南アジア廃棄物処理額	100	96	101	95
リサイクル原料集荷量 (小坂製錬向け)	100	105	125	120

売上高・経常利益



2018年度下期の概況

- ・難処理廃棄物の集荷・処理量は堅調
- ・低濃度PCBは、処理量増も単価は低下
- ・金属リサイクル原料の海外集荷量は増加
- ・国内の自動車シュレッダーダスト（ASR）や廃家電の処理量も増加

環境・リサイクル② 主要施策の進捗状況

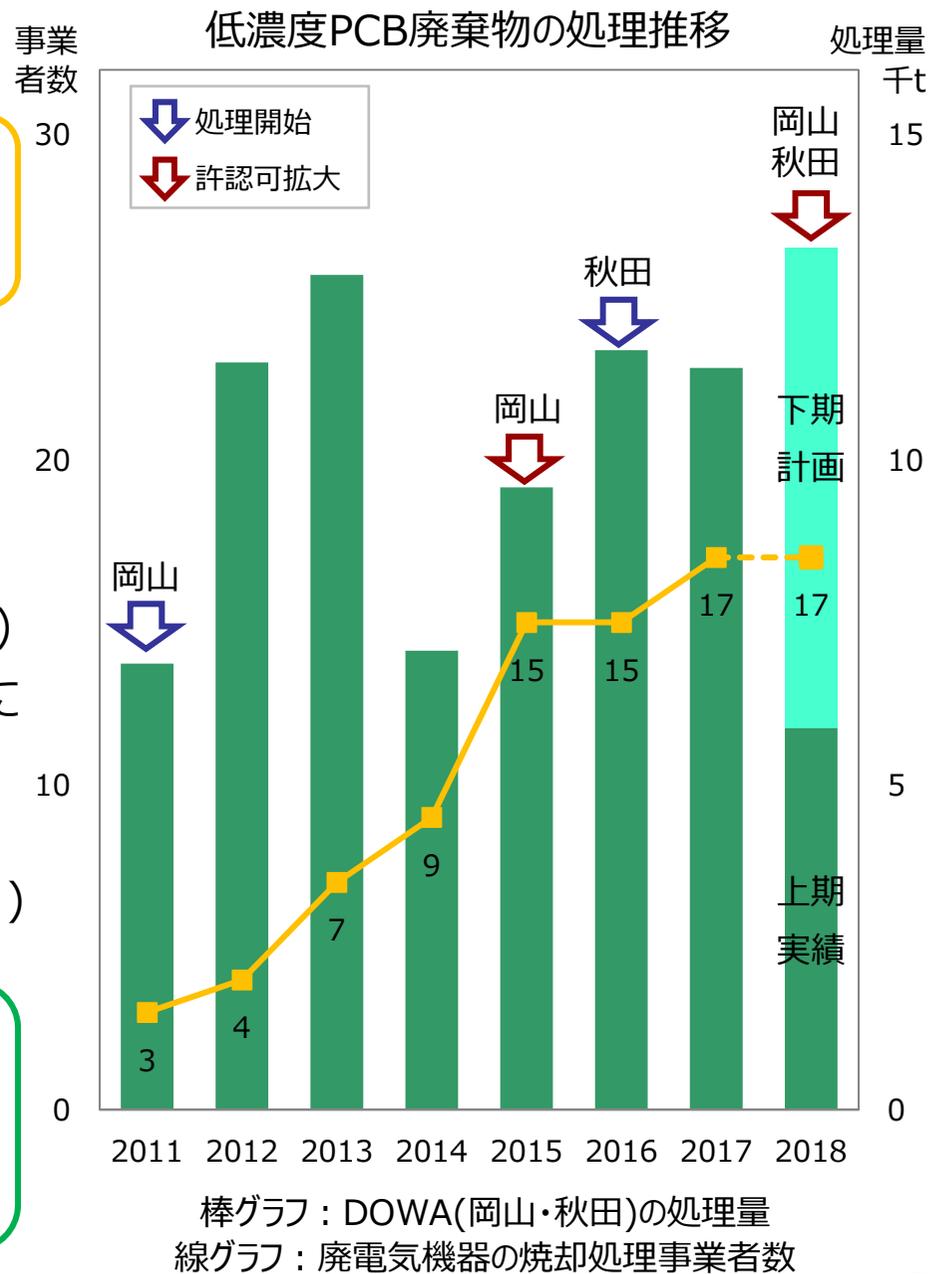
低濃度PCB廃棄物の処理量拡大

法定処理期限：2027年3月
 想定保管量に対して排出量の伸びは緩やか

既存拠点の許認可量の拡大を推進

- 岡山拠点（2018年7月）
 絶縁油の処理能力を拡大(4.3→107.5t/日)
 既存炉の許認可取得、複数炉で処理可能に
- 秋田拠点（2018年10月）
 廃電気機器の処理能力を拡大(15→30t/日)

大型機器への対応力を強化
 排出者にとっての利便性を向上
 → 幅広い層の排出者から増集荷を図る



環境・リサイクル③ 主要施策の進捗状況

国内事業の有機的連携

持続可能な循環型社会の形成が進む
→ 廃棄物の再資源化・リサイクルニーズの高まり

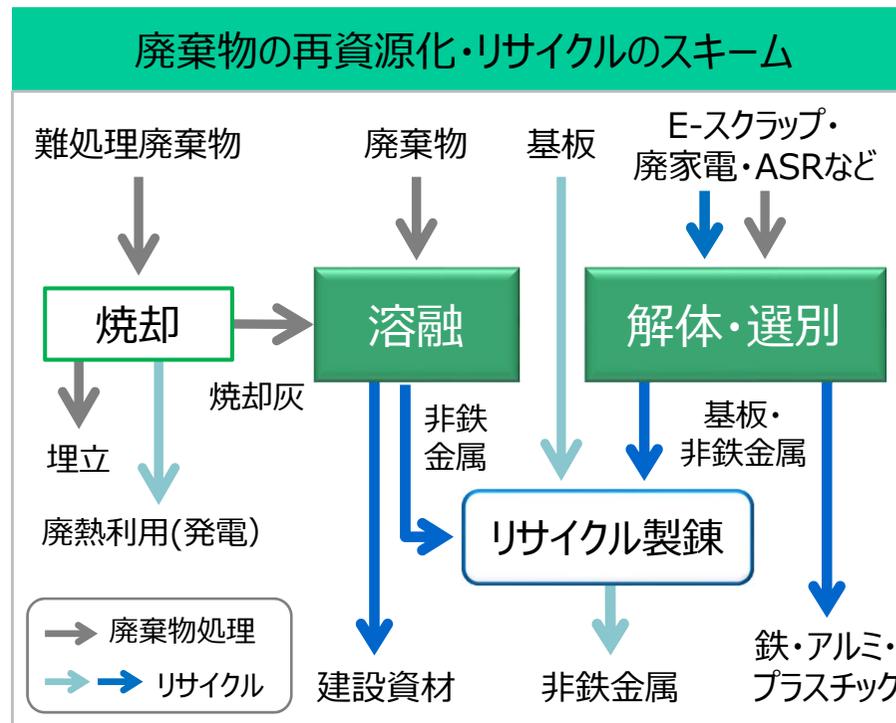
溶融処理の増強・グループ間の連携深化により
廃棄物の再資源化と有価物の回収を強化

溶融処理

焼却灰を建設資材に再資源化、含有金属を分離・回収し製錬の原料へ
⇒ 2拠点体制の確立と処理能力の倍増が完了、集荷量の拡大を推進

解体・選別処理

前処理強化による受入品目拡大、選別強化による製錬原料化の拡大
鉄・アルミ・プラスチックは、選別の細分化を進め、回収強化・資源価値の向上を図る

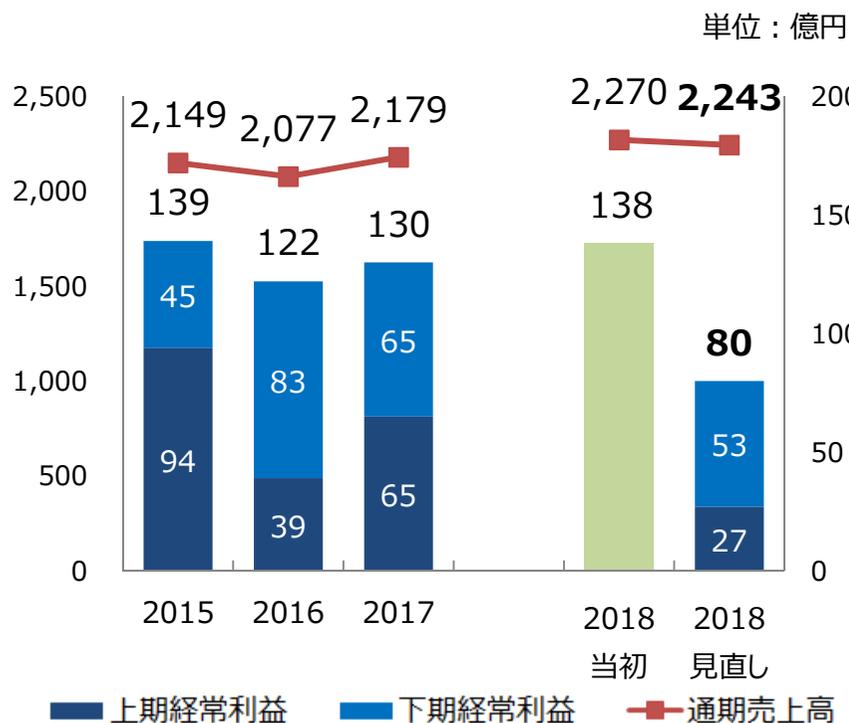


製錬① 2018年度の概況

事業環境

- ・金属価格は、世界貿易摩擦の影響を受け、ベースメタル、貴金属とも軟調に推移
- ・地金の需要は、総じて堅調

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2017年度上期 = 100)

	2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期
銅生産量 (小坂・小名浜)	100	85	84	92
金生産量 (小坂)	100	106	112	115
亜鉛生産量 (秋田)	100	118	104	118

2018年度下期の概況

- ・金属価格下落の影響により、亜鉛などの主力製品の差量収入が減少
- ・海外の自社鉱山の利益も同様に減少
- ・副産金属であるすずの回収強化や亜鉛のリサイクル原料の集荷拡大を推進

製錬② 主要施策の進捗状況

亜鉛事業の拡大

原料の確保

自山鉱比率の向上による精鉱の安定調達
鉄鋼ダストなどのリサイクル原料の集荷拡大

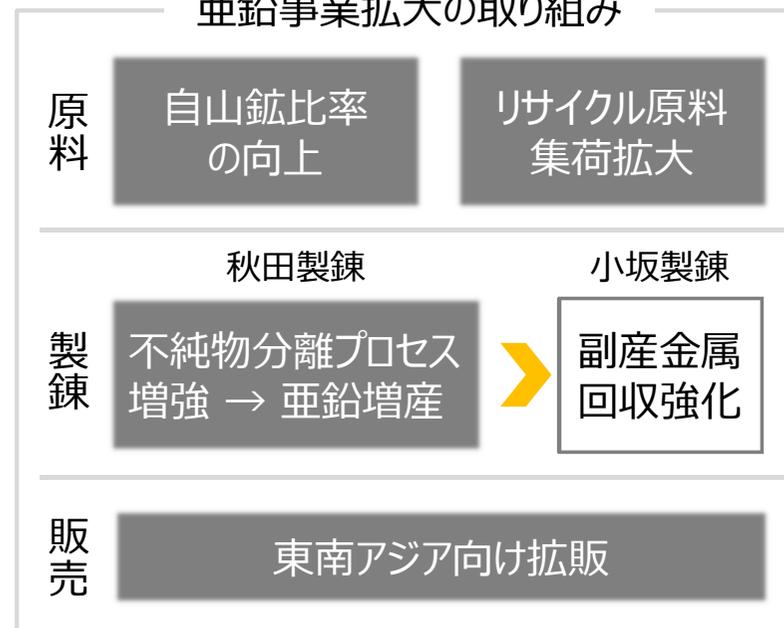
亜鉛の増産

秋田製錬、リサイクル原料前処理施設において
原料の不純物分離プロセスの増強工事に着手
→ 亜鉛の生産能力を22万t/年へ（2020年度）

成長市場への拡販

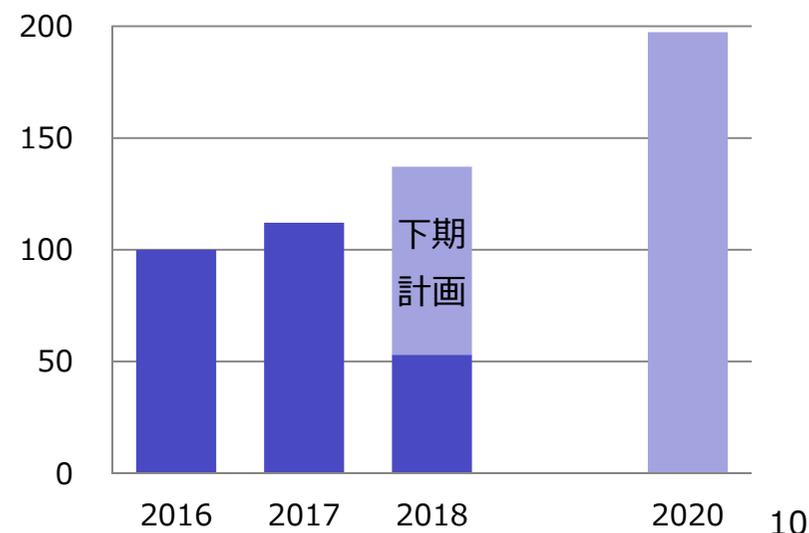
タイ加工拠点の生産能力増強
2018年度：2.2万t/年への増強完了
2019年度下期の3万t/年への増強に向けて
行政手続きに着手
東南アジアで自動車用溶融亜鉛めっき向けを拡販

亜鉛事業拡大の取り組み



タイ加工拠点の販売量

(2016年度=100)



製錬③ 主要施策の進捗状況

資源開発の推進

ロス・ガトス銀・亜鉛・鉛プロジェクト（メキシコ）
計画通りのスケジュールにて建設進捗中

2019年度

- 2Q：精鋳の生産開始予定
- 下期：秋田製錬での処理開始予定

自山鋳比率の向上（2割→4割）
亜鉛・銀品位の高い精鋳の安定調達



ロス・ガトスプロジェクト 建設の状況

パルマー亜鉛・銅プロジェクト（アラスカ）

2018年度：探鋳活動の推進

- 埋蔵鋳量：800万tから1,000万tに増加
- 探鋳エリアのさらなる拡大、坑口予定地までの
道路・付帯設備の建設

2021年度以降：F/S開始を目指す



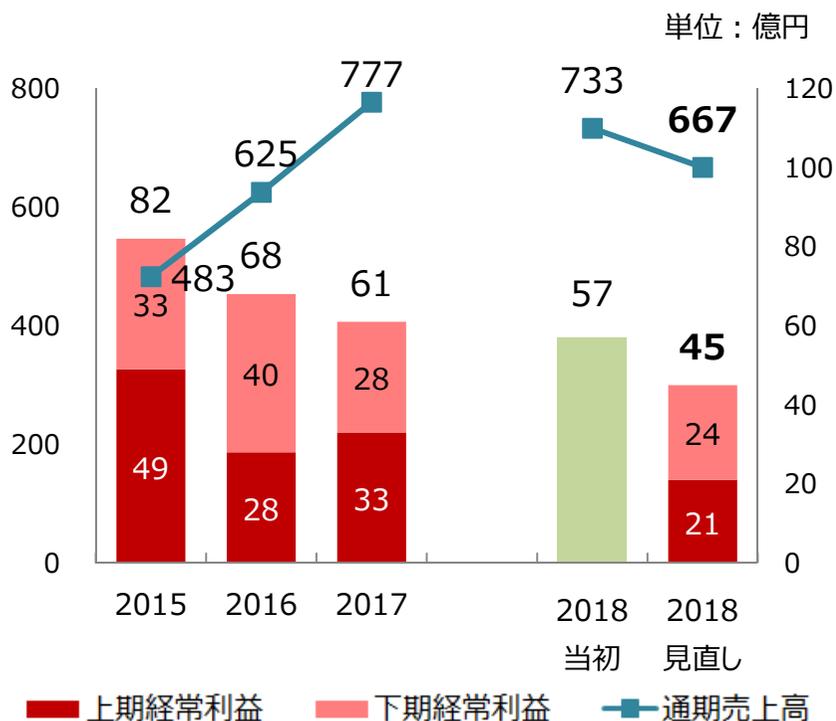
パルマープロジェクト

電子材料① 2018年度の概況

事業環境

- ・近接センサ向けLEDの需要は減少
- ・太陽光パネルの市場は、足元は調整局面、2019年度以降は再拡大の見込み

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2017年度上期 = 100)

	2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期
LED販売量	100	111	101	76
銀粉販売量	100	91	80	85
新規製品収入 (サンプル代金など)	100	148	152	179

2018年度下期の概況

- ・銀粉は、在庫調整の一巡や新型太陽光パネルの生産比率向上などにより、需要は下期から回復の見通し
- ・深紫外LEDや近赤外LED、導電性アトマイズ粉など新規製品の拡販に注力

電子材料② 主要施策の進捗状況

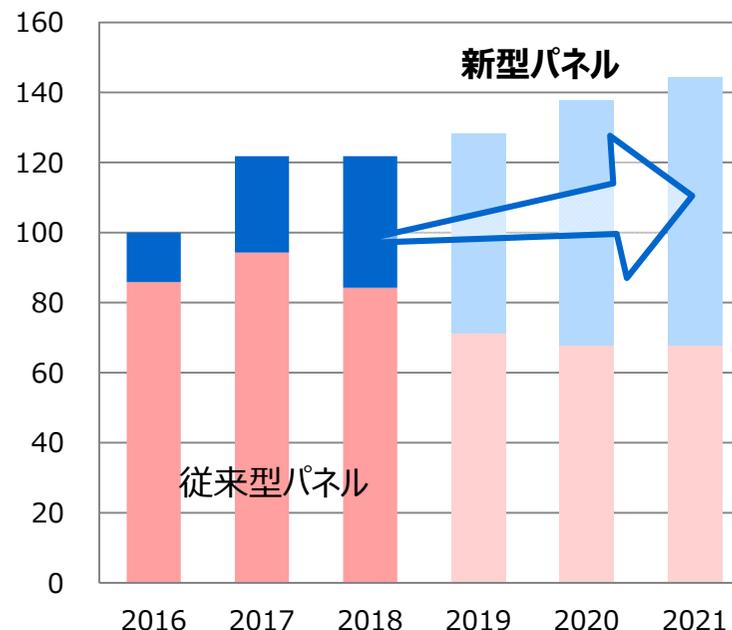
新型太陽光パネル向け銀粉の拡販

中国における太陽光パネル向け補助金削減は
新型パネルよりも従来型パネルへの影響が大きい
→ 新型パネルは、面積あたりの発電量が多く、
今後、新型への移行がさらに加速する見通し

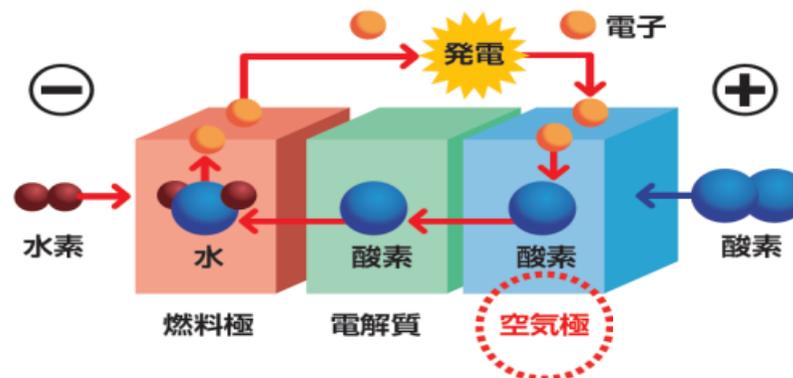
新型パネルに最適な銀粉を開発・拡販

→ 粉体のサイズ・形状・粒度分布などを制御し、
高い導電性の保持と電気配線の細線化を実現

世界の結晶シリコン型太陽光パネル設置量



燃料電池のしくみと当社製品の役割



燃料電池材料の拡販

2017年度下期に認定取得・量産を開始

2018年度は顧客拡大により、さらに数量増加

電子材料③ 主要施策の進捗状況

導電性アトマイズ粉の拡販

情報通信分野

IoT化の進展や5Gに向けた基地局の増設、端末の高速処理化・多機能化が加速

→ 機器・端末あたり電子部品の搭載数は増加

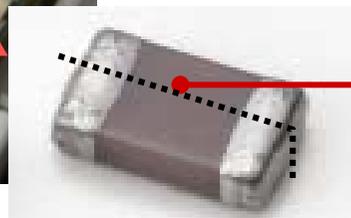
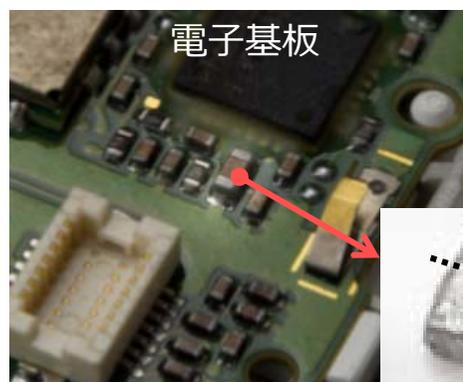
→ 電子部品はダウンサイジング化、電極向け材料への特性要求が高度化

電極向け導電性アトマイズ粉

独自の技術により、微粒子化と高導電性の両立を実現

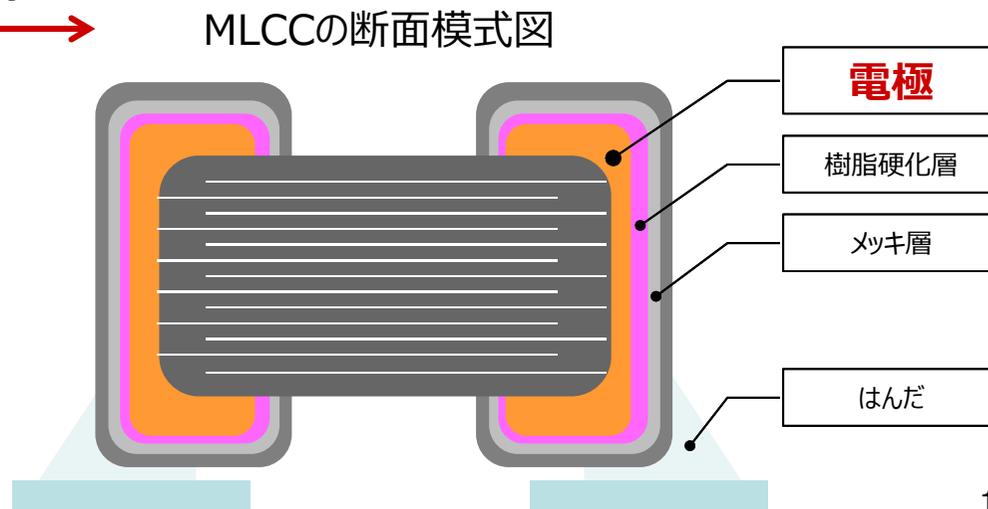
→ 顧客認定を取得し量産を開始、2020年度までに黒字化の見通し

■積層セラミックスコンデンサ（MLCC）での使用例



MLCC（拡大）

MLCCの断面模式図

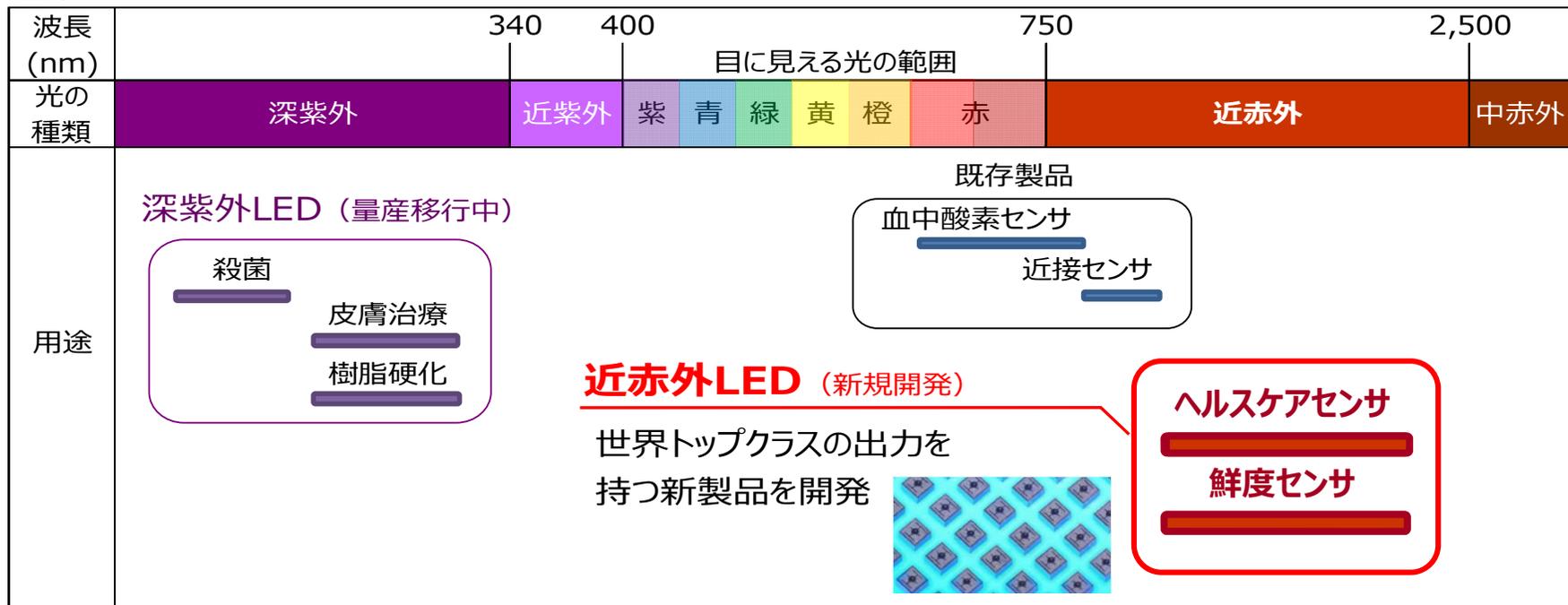


電子材料④ 主要施策の進捗状況

用途拡大に向けた新規LEDの開発

波長を精密に制御する技術を活かし、シーズ・ニーズのある波長域の新規LED開発を推進

当社LEDのラインナップ



近赤外LEDの用途

装着可能・採血不要な血糖値測定

簡易的・即時的な農作物の鮮度測定

→ サンプル出荷を開始、2020年度までの製品化を目指す

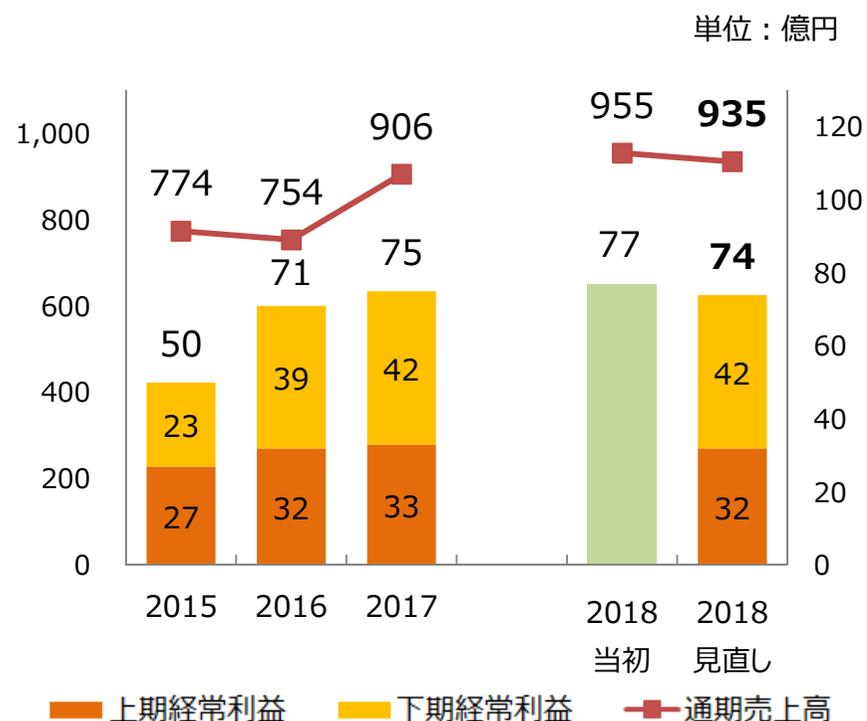


金属加工① 2018年度の概況

事業環境

- ・自動車の電動化・知能化やIoT化の進展により、主要製品の需要は拡大
- ・スマートフォン関連製品の需要は成長鈍化

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2017年度上期 = 100)

	2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期
伸銅品販売量 (自動車向け)	100	106	102	110
伸銅品販売量 (IoT機器向け)	100	101	104	105

2018年度下期の概況

- ・自動車向けを中心に需要堅調であり、引き続き、高水準の生産を継続
- ・生産能力増強に向けた設備投資を主要拠点で実施、旺盛な需要への対応を強化

金属加工② 主要施策の進捗状況

中国における伸銅品加工事業の強化

車載用伸銅品の市場変化

EV・HVの普及、IoT化の進展による電装品の増加

→ 自動車1台あたりの伸銅品の使用量が拡大

自動車に対する消費者の安全・安心意識の向上

→ 耐腐食性向上のため、すずめっき加工を施した
車載コネクタ用伸銅品の需要は、今後も拡大

中国は内需拡大により、車載部品の現調化需要が増加

■ 新拠点の設立

南通市に伸銅品すずめっき加工拠点を設立し、
2019年10月から操業開始を予定

上海市に次ぐ同国内2つ目の加工拠点

→ 需要の拡大する中国国内向けへ拡販を図る



加工中のすずめっき伸銅品



金属加工③ 主要施策の進捗状況

金属-セラミックス基板の拡販

電鉄、EV・HV向けの拡販

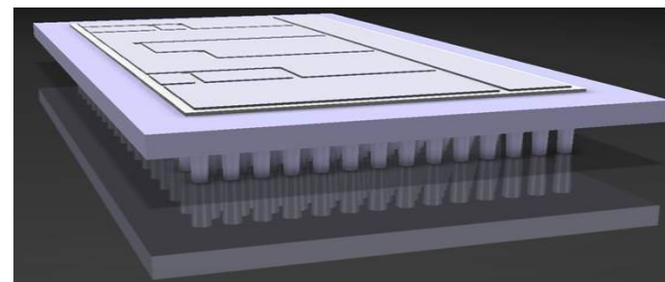
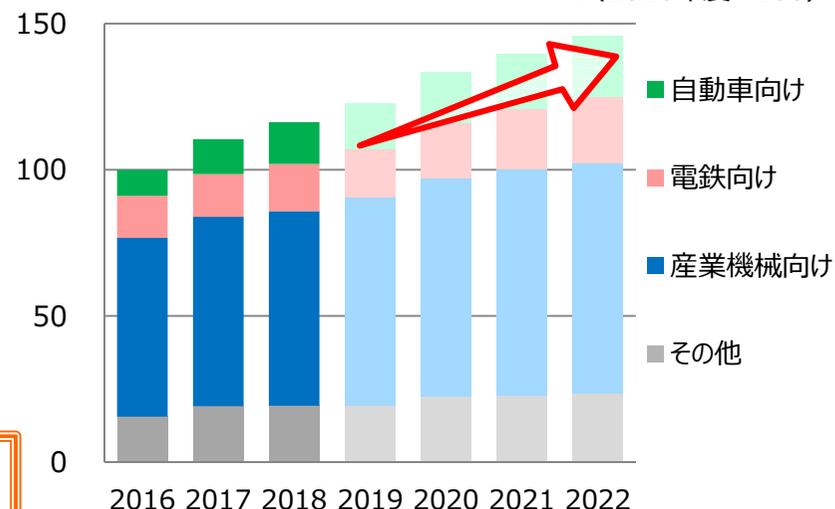
産業機械向け、風力・太陽光発電向けと共に、
電鉄、EV・HV向けパワーモジュール市場が拡大



パワーモジュール用基板への特性要求の高まり
(小型化・軽量化、信頼性向上、放熱性向上)
→ 一体型 金属-セラミックス基板を開発・量産
海外のEV・HV向けで搭載が進む

さらなる需要増加に対応するため、生産設備の
増強を実施 (1stステージのライン設置完了)
→ 需要に応じて段階的な増強を行い、
数年後に現状比3倍以上へ生産能力を拡大

パワーモジュールの世界市場 (2016年度=100)



一体型 金属-セラミックス基板



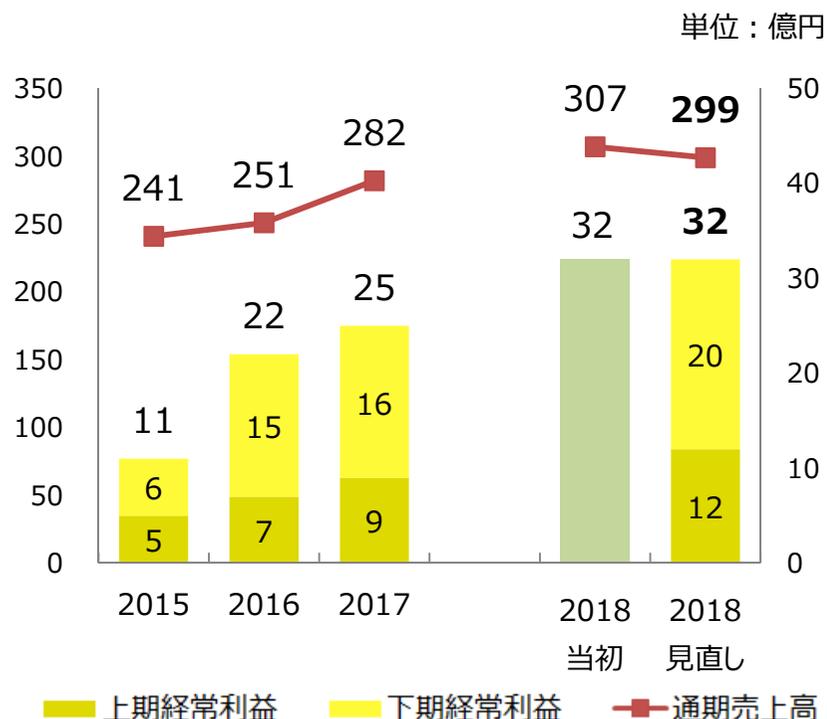
設備増強を進めるDOWAパワーデバイス

熱処理① 2018年度の概況

事業環境

- ・世界の自動車生産は、インド・東南アジアが牽引し、緩やかな拡大基調が続く
- ・部品数の多いAT車の世界的な普及・拡大により、熱処理加工の需要が増加

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2017年度上期 = 100)

	2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期
熱処理加工売上高	100	111	111	115
工業炉売上高	100	127	104	145

2018年度下期の概況

- ・堅調な自動車生産が下支えとなり、熱処理加工、工業炉ともに需要は堅調
- ・今後、さらに熱処理加工の現調化需要が拡大する海外において、事業拡大策を推進

熱処理② 主要施策の進捗状況

海外における熱処理事業の拡大

自動車・自動車部品メーカーの
生産地が海外へ遷移

ビジネスモデル

- ・熱処理加工、設備販売・メンテナンス事業を展開
- ・海外6ヶ国、13拠点のネットワーク

「**既存の強化**」 + 「**新規展開**」の両輪で海外事業を強化

事業拡大に向けた施策

● 既存拠点 ● 強化する既存拠点 ● 新規拠点

 **インド**
2018年度下期に、新たに熱処理加工2拠点
の操業開始予定、インド国内全8拠点へ

 **米国**
ノースカロライナ州にメンテナンス拠点を設立
将来的には熱処理加工事業への展開を計画

 **中国**
現地での需要拡大に対応し、
熱処理加工設備を増強

 **メキシコ**
熱処理加工設備を導入、顧客認定を取得中
→ 2018年度に完了、2019年度から事業貢献

DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。